

あなた  
わたし  
さよなら

宇吹萌・作

【登場人物】

男 女

高円寺にあるカフェ。男が人を待っている。  
女、来る。

女 ピノさんですか？

男 キコさん？

女 お待たせしちゃってすみません。

男 さつき着いたところです。

女 どうしようか迷っちゃいました。

男 ああ・・・。

女 ふつう早めに着きますよね。ギリギリになっちゃいそうだったから、連絡しておこうかどうか迷っちゃいました。

男 ・・そっちな。

女 私も十分前には着いていようと思ってたんですけど、高円寺は休日運転だと止まらないのを忘れてたんです。新宿で中央線に乗りかえちゃったんですよ。総武線に乗らないといけなかったのに。

男 中央線よく使うんですか。

女 全然。学生時代に何度か吉祥寺に遊びに行ったことがあるくらい。

男 吉祥寺にすれば良かったですね。今度は吉祥寺にしましょう。

女 さすがに遠すぎるかも。

男 遠かったですか。すみません。

女 気にしないでください。相模原からだどこでも遠いんです。

男 それもそうですね。いつもはどこが多いんですか？

女 新宿です。相模大野って言いたいところですけど、自分の都合で相模大野まで人を呼び出すわけにはいかないでしょう？新宿だと小田急線一本で行けますので。

男 JRに乗り換えるのも新宿だと楽ですよ。今日は渋谷乗り換えじゃなくて良かったです。

女 確かに渋谷は疲れます。いつも混んでて降りるだけで体力消耗しちゃう。

男 そうじゃないかと思っただんですよ。高円寺なら空いてるし、新宿から近いでしょ。高

円寺で大正解でした。

女 新宿でも良かったんですけど。

男 休日に新宿でどこか探すととなるとカフェ難民になり兼ねません。

女 ホテルのラウンジでも予約しない限りは。

男 それだとさすがに堅苦しいかなと思って。

女 なんか緊張しますね。

男 そうですね。緊張します。

女 会うのはじめてなんですよ。

男 そうなんですネ。

女 親友がこれで上手くいったんです。あ、これじゃなくて別のアプリですけど。それで出会って結婚して、あなたもやってみたらって勧めてくれて。旦那さんのことも知ってるんです。それがすごく良い人で。

男 そうだったんですネ。

女 写真よりも優しそうですネ。

男 そうですか。

女 実物のほうが全然いいですよ。

男 キコさんも写真とは全然違いますネ。もっと強そうなひとかと思ってました。

女 強そう？

男 すごい学歴だし仕事もバリバリしてそうだし、そういう女性ってプライドも高そうだから。

女 そんな風に見えちゃいましたか。

男 やたらと美人だったし。

女 加工はしてないんですけど。

男 実物は普通ですネ。全然普通。

女 すみません。

男 普通なほうがいいですよ。安心しました。

女 そうですか。

男 似合ってますネ。そのシャツ。

女 ありがとうございます。

男 女性らしくて良いです。

女 良かった。ホテルのラウンジだったらワンピースにするつもりだったんですけど、高円寺だし。かといって地味すぎるのは失礼ですよネ。せめて色だけでも綺麗な色を着てこようと思ってこれにしたんです。ピノさんのシャツも似合ってますネ。

男 ユニクロですよ。

女 いいと思います。男の人はそれで。私、洋服にやたらとお金かけるひとあんまり好きじゃないんです。他にやることあるだろうって思っちゃう。

男 仕事とか。

女 仕事じゃなくても、趣味でもなんでも。

男 なににしますか？

女 なににしようかな。それは？

男 ブレンド。

女 じゃあ私も。

男 適当に選ばなくていいんですよ。他にも色々あります。

女 適当に選んだわけじゃありませんけど。

男 チャイとかどうですか？女性なんだし。

女 女性なんだし？

男 女性に人気でしょ。男性はスパイス系はあんまり。

女 確かに男性はパクチーとかミントが苦手な方が多い気がします。

男 そうそう。だからチャイとかフレーザーティーを頼んでのを見ると、デートしてるって感じがするんです。変ですか。

女 じゃあ、チャイにしますね。(店員を呼ぶ) すみません。

店員、来る。

男 チャイ一つ。別々で。

間。

女 こんなお洒落な隠れ家カフェよく知っていましたね。なんか意外。

男 毎日通るから。

女 高円寺に住んでるんですか？

男 斜め前に電気屋があったでしょう。その通りを入れてしばらく行ったところなんです。

女 すぐそこ。

男 こここの店になる前は「花鳥風月」っていう有名店だったんですよ。オムライスが人気の。地元の人はみんな知ってるけどひとには絶対教えない。隠れ家カフェって、本来は秘密基地みたいにくっそり楽しむのが正しいんですけど。今日は特別。

女 穴場ですね。

男 でしょ。

女 ・・ピノさんって面白いひとですね。

男 そうですか？

女 損するタイプでしょ。

男 得はしてませんね。

女 私、世紀の紀って書いて紀子って言うんです。紀子さまと同じ系へん。だから音読みでキコ。ピノさんは？

男 なんでも良いですよ。

女 なんか失礼。

男 すみません。慣れてないもんですから。

女 もう長く活動してるって書いてありませんでしたか？

男 オッケーされるのに慣れてないっていうか。

女 本名を明かして振られるのが怖いってこと？

男 気に入ってもらえなければ明日からまた他人になるわけだし。

女 わかりました。だったら私も苗字は言わないでおきます。こうしませんか。もしお店を出るまでに仲良くなれたら下の名前を教えてください。

男 気を遣わせちゃってすみません。

女 自己PR文にも性格でてましたよ。たどたどしいってどうか、堅いってどうか。けど、スペックが高くて、アプリのテンプレート貼ってるだけの男性よりも好感が持てたんです。

男 年収気になりますよね。

女 最初は。だけどメッセージを交換してるうちに人柄のほうが勝るってこともあるでしょう。ピノさんに会う気になったのも何となく合うかなって思えた部分があったから。

男 僕もキコさんに良い印象しかなかったです。

女 申し込んでくれて嬉しかったです。ありがとうございます。

男 こんなにすんなり会えるとは思ってませんでした。

女 誤解しないでくださいね。私こんなに簡単に会ったりしませんよ。アプリだと経歴詐称とか下手すると既婚者もいるって噂。騙される人も多いみたい。

男 それは女性も同じですよ。女性の場合は写真詐欺がとにかく酷くて。

女 ラブラブ・カムカムは比較的安全な優良アプリだって聞きますけど。

男 ユーブライド、ペアーズ、ウイズ、マッチ・ドット・コム の順で酷かったですね。登録者数が多いとそれだけ外れも多くなる。ラブラブ・カムカムは優良っていうより登録者が少ないだけじゃないかな。かなりマイナーですよ。

女 ……

男 恥ずかしがることありませんよ。こういうの当たり前になってきてますから。勧められる親友がいなくなっちゃって、アプリくらい誰でも使います。リアルで誰も見つからないのはモテないからだって自分を責めてみたところでも始まりませんからね。

問。

女 高円寺どれくらいになるんですか？

男 ずっと。

女 ずっと？ってことは、ご実家？

男 はい。

女 独り暮らしって書いてませんか？

男 あの項目は確か未選択にしてあったと思います。

女 申込みしてくれたときには「独り暮らし」になってましたよ。

男 間違えて選択しちゃったのかも知れません。ちゃんと訂正はしてあるはずですよ。

女 そうだったんですね。

男 確認してみますか。(携帯でアプリを開こうとする)

女 (止める) いいです。やり取りが始まってからはプロフィール見てませんでした・・・

男 実家だとマズイですか？

女 そんなことありませんよ。どちらかと言えば実家暮らしじゃないほうがいいかなとは思いますが。そんなことより相性が大切だと思います。映画、海外旅行、ディズニ  
ー、ワインとか、ピノさんとは共通のキーワードがたくさんあったでしょう？たしか  
カフェもキーワードに入れてましたよね。こういうお店にはよく来るんですか？

男 婚活始めてからですね。会うとなるとカフェが無難でしょう。最初から食事だとお金  
かかってお互いに負担になりますから。

女 カフェってそういう意味だったんですか。

男 お陰ですっかり詳しくなりましたよ。まさかこんなにしょっちゅうコーヒー飲むこと  
になるとは思わなかったな。

女 ……

男 すみません。自虐的で。

女 そんなにたくさん会ってるんですか。

男 アプリだとそうなっちゃうでしょう。

女 変な話題ふっちゃいましたね。婚活の話やめましょう。普段はどんなお店に行くん  
ですか？ワインもキーワードに入れてましたけど、白が好きなんですか？

男 どうして？

女 ピノってつけるくらいだから、赤が好きなのかなって思っ

男 あれはチョコですよ。

女 チョコ？

男 ピノってアイスあるでしょ。あれです。

女 ピノ。

男 ド定番ですよ。PINO。

女 知ってます。赤いパッケージの。

男 ダメだなあと思いますが寝る前についつい食べちゃう。子供みたいですね。

女 そういえば、ディズニールランドも好きなんですよ。ランド派ですか？それともシー  
派？

男 どっちって言うほどでも。どっちも行ったことはありませんけど。

女 特に好きってわけではない。

男 そうですね。

女 私はエレクトリカルパレードが好きだからランド派ですけど、映画好きならピノさん  
はシーのほうが楽しいかも知れませんね。「インディージョーンズ」のアトラクション  
があったりして。

- 男 マイケル・J・フォックスの。
- 女 それは「バック・トゥ・ザ・フューチャー」。もしかして、映画も実はあんまり見てないとか・・・。
- 男 最後に見たのは「E・T」ですかね。それか「グーニーズ」だったかも知れません。
- 女 古。
- 男 映画館になんて独りで行くわけないでしょう。
- 女 海外旅行っていうのは？
- 男 旅行っていうか出張ですね。先月も上海に行きました。
- 女 上海ですか。私も行ったことがあります。もう十五年以上前でしたけど。私が行ったときは上海もまだまだ田舎でした。それがいまやビジネスの中心。ずいぶん変わりましたよね。
- 男 どうなんでしょうね。ホテルから出なかったからなんとも言えませんね。
- 女 まさかのトンボ帰り？
- 男 一週間いましたよ。
- 女 なのにホテルから一歩も出なかったんですか？
- 男 仕事ですから。
- 女 自由時間がまったくなかったとか？
- 男 夕方からは自由でしたけど、ホテルのレストランで食事したくらいですかね。どうせ言葉が通じないし。
- 女 あの。
- 男 なんですか。
- 女 趣味は？
- 男 趣味。
- 女 とりあえずキーワードに入れておいたっていうんじゃないような。
- 男 無難なのはありませんね。
- 女 無難じゃなくていいです。
- 男 話が広がらないと思いますよ。
- 女 そう言われると気になります。
- 男 話が広がらなくてもいいんですか。
- 女 話してください。
- 男 速読と睡眠。
- 女 速読と睡眠。睡眠は置いてくとして、速読っていうのははじめて聞きました。
- 男 ピンとこないでしょう。
- 女 そんなことありませんよ。どうしてやってみようと思ったのか興味あります。
- 男 仕事柄とにかく読まないといけない本が山ほどありますから。
- 女 SEさんでしたっけ。

男 すぐに新しい技術が出てくるんです。使いこなせるようになる頃にはもうその技術は古くなっちゃってる。絶えず追い付け追い越せなんです。技術と技術者のイタチごっこ。

女 大変そうだけど、遣り甲斐がありそうですね。

男 何言ってるんですか。遣り甲斐なんて求めちゃったらお終いですよ。なるべく思い入れを持たずに淡々とこなさいと自分が潰れます。絶えず追われているだけじゃありません。たった一つのミスが大惨事になる業種ですからね。緊急連絡も昼夜問わず。それもシステムダウンとか全データが失われるとか、致命的すぎてごめんなさいって頭下げるだけじゃ済まないレベルのトラブルばかり。設計さんのミスだとしても、技術者だって始末書はしっかり書かされます。遣り甲斐なんてあるわけがないでしょう。遣り甲斐だの天職だの誇らしげに語ってたやつほどさっさと鬱になって辞めさせられるんですよ。

女 いまの会社はもう長いんですか。

男 去年転職しました。

女 前は何のお仕事だったんですか？

男 教育関係。それはそれで大変でした。変なひとばかりで。

女 まったく違う分野。勇気ありますね。私にはできません。

男 そう言ってもらえると嬉しいですね。転職するの好きなんですよ。メーカー、教育、SEときて、実はいま、一周まわってメーカーに戻ろうかと思ってるところ。あ、もしかししたら転職が趣味だったりして。

女 辞めちゃうんですか？

男 人を相手にするより物を相手にするほうが楽だから。人はなかなか思い通りにならないけど、物は思い通りになるでしょう。当時はそのことに気づかずに、上司と馬が合わなくて辞めちゃってもったいなかった。物を扱う仕事が性に合わないと思って教育の現場に駆け込んでみたけど、人とはもつと合わないことにそこで気づきました。からの、システム。ところがシステムも危機管理は対人能力が問われるんですよ。結局最初のメーカーが一番性に合ってたんじゃないかな。あの上司さえいなければ。

女 キャリアアップとか全然考えてないんですね。

男 仕事仕事だと、何のための人生か分からなくなっちゃいませんか？プライベートを確保するためには常に膨大な資料を読まないといけないんです。しかも興味がない論文とか学術書ばかり。どうしたら時短になるんだろうって真剣に頭を悩ませてたところに電車の吊りが目に入りました。チャンスの神様は毛が三本って言いますよね。しっかり掴みましたよ。その場ですぐにレッスンに申込みましたから。

女 レッスン。

男 人生初の習い事でした。

- 女 速読って習えるんですね。
- 男 本当に早く読めるようになりますよ。そのぶん寝れる。速読さままでです。
- 女 あの。
- 男 なんですか。
- 女 趣味って必要に迫られてやるなにかって言うより、もっとう、ときめくなにかじゃないですか。速読は趣味とは言えないかも知れませんね。
- 男 言いましたよね。話が広がらないって。
- 女 余計なお世話かも知れませんが、SE辞めなくていいんじゃないですか。
- 男 辞めますよ。
- 女 システムの仕事すごく向いてると思います。これまで千人以上の適性を見定めて配属してきた私が言うんですから、騙されたと思って信じてください。理屈っぽくて合理的で感性が乏しくて人の気持ちが分からない。褒めてるんですよ。ことごとく揃ってるひとは滅多にお目にかかれませんか。少なくともメーカーには向いてません。
- 男 そう言えばメーカーに勤めてるんですかね。
- 女 人事部。失礼ですけど、転職歴を聞く限り業種に問題があったわけじゃなさそうです。メーカーに入ったって実際に商品を作るのは工場だし、教育関係っていうのも教師をしてたわけじゃありませんよね。
- 男 違いますね。
- 女 具体的には何してたんですか？
- 男 電話とったり資料まとめたり。
- 女 一般事務。
- 男 括っちゃいますか。
- 女 メーカーの一般事務に復帰するためにSE辞めようとしてるんですか？
- 男 定時に上がりたいんですよ。
- 女 からの、速読。じゃなかったんですか？
- 男 空いた時間でテレビが見たいんです。
- 女 見れるでしょう。いくらでも。
- 男 いまのままだと速読と睡眠。せつかく速読で時間稼いでもシステムのストレスがすごすぎてぐったりしちゃうんですよ。寝て回復するしかなくなる。本当は、「速読と睡眠」じゃなくて、「速読とテレビ」が理想なんです。
- 女 テレビ。
- 男 これと言った番組があるわけでもないんですけどね。なんとなく流してる感じですよ。ニュースとかクイズ番組とか。
- 女 しつこくてごめんなさい。一見営業向きに見える子でも広報はもっと向いてたってこともあれば、クリエイティブ希望だった子を営業に配属してみたら誰よりもすごい数字を叩き出すこともあったり、他人が客観視してくれたほうが本来の適性を見つける

ことができたりもします。私だって入社した当時はクリエイティブ志望だったのに、いつの間にか人事部にまわされて、部長にまでなってます。

男 その若さで。

女 若くはありませんよ。

男 見れば分かります。部長にしてはってことです。キコさんやっぱバリキャリですよ。そのくせ自分の人生となると適材適所の配置ができない。抜け感っていうんです。そう。そういうの。女性はそれくらい抜け感があったほうが絶対がいい。肩の力抜きましよう。キコさんもテレビくらい見てください。

女 「ダーウィンが来た」は結構好きです。

男 そういえばキーワードに動物って入れましたね。

女 そうなんです。動物番組はどれも好き。「嗚呼みんなの動物園」も好きでした。ピノさんも大好きってキーワードに入っていましたよね。

男 そこらにいれば普通に可愛いですよ。犬は。飼ってみると撫でなくなったりもするのかな。

女 飼ったことないんですか？

男 アレルギーなんです。犬も猫も。

女 共通点なんかないもない。

男 そんなことありませんよ。すみません。ぜんぜん拾えてませんね。困惑しちゃって。

女 ……

男 こんなに一生懸命話題をふってくれる女性が初めてで。…まったく関係ないし、引かれるかも知れないんですけど、一つあります。ときめくこと。

女 何ですか。

男 アクセサリー作り。

女 アクセサリー作り？

男 ピアスとか、ネックレスとか。パーツを買って作るのが好きです。…なんか恥ずかしいですね。

女 プレゼント？

男 ただ、デザインを考えてどう作ったらいいかを考えて実行に移して、それを形として完成させるのが楽しいんです。誰かにあげるってことでもなく。

女 ちゃんとあるじゃないですか。趣味。

男 ドン引きでしょ。

女 どうして？素敵じゃないですか。

男 システムの設計と少し似てるところがあるんですかね。ただアクセサリーはシステムと違って、失敗しても致命的にはならないし、なにより見た目が綺麗。だからときめく。

女 写真ないんですか？作品見せてくださいよ。

男 実はいくつか持ってきてます。(出す) これ、最新作です。

女 わあ、すごくセンスいい。ちゃんとスワロフスキーまで使ってる。

男 貴和製作所で買いました。

女 すごい。貴和製作所って言葉が出てくるなんて。こういう話がしたかったんですよ。早く言ってくればよかったのに。

男 よかった。引かれなくて。

女 むしろもっとアピールしたほうがいいですよ。

男 プラス要素とは思ってませんでした。

女 なんかピノさんのことばかり一方的に聞いちゃいましたね。会話の流れ作るのあんまり得意じゃないんです。私にもいろいろ聞いてください。

男 いろいろ。

女 知りたいこととか、なんでも。

男 なんで結婚できないんですか？

女 それ聞いちゃいますか。

男 なんてかなと思って。

女 なんてでしょうね。

男 ・・もしかして離婚してるとか？

女 してません。

男 ぼくもやり取りが始まってからはプロフィール見てませんでしたので。

女 やり取りが始まってからプロフィールの内容変えたりしてませんよ。私は。

男 すみません。気を悪くさせるつもりはなかったんですけど。

女 仕事が軌道に乗って、ある程度責任あるポジションを任せられるようになった頃には三十代に突入してました。当時は学生時代からの彼もいましたし、結婚はいつでもできるって思ってたんです。だけど、その彼とは転勤で終わっちゃいました。よくある話。

男 安心しました。人格に難ありとかそういうんじゃないんですね。

女 ・・・

男 その彼は？

女 結婚してます。確か子供も二人。

男 彼の気がまだあつたうちに結婚しちゃえばよかったのかも知れませんがね。

女 後悔はしてませんよ。人生長い目で見ても何が正しいのかなんて分かりっこないですよ。その時々で正しいと思えたことをするだけ。ピノさんこそなんで結婚できないんですか？

男 なんてでしょうね。

女 前の彼女は？結婚考えなかったんですか？

男 まだ学生だったから。

女 前の彼女ですよ。

男 はい。

女 そのままで遡っちゃうんですか。

男 はい。

女 長いお付き合いだったんですね。

男 二ヶ月。

女 短い。

男 その彼女といずれは結婚しようと思ってました。

女 それで？

男 卒業したら音信不通になっちゃって、それっきり。

女 でしょうね。

男 でしょうねって。

女 そろそろ行きましようか。

男 まだ三十分しか経ってませんよ。

女 そうですか。もう一時間以上経ったと思いました。

男 まだ三十分です。チャイも飲み終わってないし。

女 いいんじゃないですか。会う時間に決まりがあるわけでもないし。

男 決まりはなくても、相手への礼儀としてはどうかなって。

女 今日はどうもありがとうございます。私のほうからまたご連絡しますね。

男 その手にはのりませんよ。

女 はい？

男 ブロックするつもりでしょう？

女 ブロック？

男 その前に僕が報告するかも知れません。早いもの勝ちなんだから。

女 なにそれ。

男 (手元に携帯を持って) プロフィールに偽りがあったとか、酷い目に遭ったとか、管理人にいくらでも報告できます。報告されたら強制退会になり兼ねませんよ。所詮アブリですからね。実際どうだったのかなんて調べません。どっちが早く連絡入れるかだけなんです。

女 脅してるんですか。

男 冗談ですよ、冗談。報告なんてするわけないじゃありませんか。

女 言っていることと悪いことがあるでしょう。

男 ・・度が過ぎちゃいましたね。すみません。このままもう二度と連絡もないんだろうと思うとつい卑屈になっちゃって。実はブロックされたことがあったんです。面会のあとすぐに。ホテルに誘われたとかあることないこと報告されました。二十分くらいお茶しただけだったのに。

女 そうだったんですか。

男 トイレに行っている間に帰られたこともありました。  
女 ひどい。

男 いつもの僕だったらここで諦めます。でも今日はもう少しだけ頑張らせてください。  
キコさんというの楽しいんです。

女 ……  
男 そうだ、これ。

男、手土産を女に渡す。

男 こけしやさんのレーズンサンド。松本清張も通ってた西荻窪の老舗フランス料理店の  
手土産です。

女 西荻窪まで買いに行ってくれたんですか。すぐそこに住んでるのに。

男 今日はわざわざ高円寺まで来てくれてありがとうございます。

女 お気遣いどうもありがとうございます。あとでいただきますね。

男 こけしやさんも美味しいですけど、このチーズケーキも美味しいですよ。せっかく  
だから、注文しましょう。すみません。(店員、来る) チーズケーキ一つ。

間。

女 (呟く) 減点法でみないこと。減点法でみないこと。あくまで加点法で。

男 誠二です。

女 相手の良いところを探すこと。相手に期待しないこと。

男 ぼくの下の名前。

女 最悪とおきのネタってことで。転んでもただでは起きない。独り言です。気にし  
ないでください。

男 誠実の「誠」に数字の「二」。次男だから「二」。

女 いまの聞かなかったことにしますね。

男 え？

女 私も今日はもう少しだけ頑張ります。だけど、可能性は低い。

男 ……わかりました。

女 私が悪いんですよ。うすうすわかったのに高円寺まで来ちゃったんだから。「あなた」  
と「わたし」にしませんか。

男 「あなた」と「わたし」。下の名前じゃなくて。

女 さっきあなた言いましたよね。気に入られなければ明日から他人になるわけだしって。  
名前で呼ばれるのは抵抗あります。けどアプリのあだ名で呼び合うのはなんか嫌。ピ  
ノとキコって、響きからおかしいでしょ。二人合わせてピノキオなんだかキノコ

なんだかピノコなんだか。

男  
ピノコ。

女  
どうしてそんなあだ名つけちゃったんだろう。

男  
・・ブラックジャックか。

女  
デイズニー、ワイン、カフェ、海外旅行。無難で当たり障りのないキーワードばかり。共通点なんてなにもないことくらいすぐわかりました。

男  
大して会話が弾むはずもないってわかってたんなら、どうして会おうと思ったんですか？

女  
人はそもそも時間をかけて徐々に理解しあっていくものでしょ。会ってみてその場では楽しくなくても、いつか思い合えるようになれそうな相手なら良いと思ったんです。バトン渡しますね。私からはもう話すことが思いつきません。あなたはわたしとなんの話がしたいんですか。

男  
本当はぼくと同じくらいアプリで婚活してるんじゃないですか？あなたみたいな人がぼくに会おうと思うなんてどう考えてもおかしい。

女  
なにが言いたいの。

男  
初めて会うっていうの嘘でしょ。

店員、チーズケーキを運んできてくる。小ぶりで上品なケーキ。

男、ケーキをフォークで刺して一口で食べる。

女  
・・嘘じゃありません。思いやりって言うんです。何人も会ったことがあるとしても

「あなたで会うの二十人目なんです」って初対面で言われたらいい気しないでしょ。

何人目だったとしても相手に合わせるべきじゃありませんか。そういうところこそ無難にすべきなんですよ。

男  
ぼくに辿り着いたってことは、本当の希望条件で検索した相手にことごとく断られて、仕方なく条件下げてみたってところでしょう。

女  
だったらなに。

男  
共通点あるじゃないですか。ぼくも本当は「22歳から32歳までの美人」を探してました。一通りお断わりされたあとに「22歳から32歳の少し美人」に条件を下げて、さらに「22歳から32歳のなんとなく美人」に下げました。そこから「22歳から32歳の見ようによつては美人」、「22歳から32歳までのもしかしたら美人」と下つていったんですけどやっぱりダメで。「22歳から32歳までのもしかしたら美人」のあと、思いきって検索条件の見直しを図りました。地域を関東に限定するのをやめたんですよ。この際海外も含めました。「全国・海外の交通費が払える22歳から32歳までの美人」から再スタートを切ったんです。結果は同じでしたね。あの努力はなんだったんだろう。「全国・海外の交通費を払える22歳から32歳のもしかした

ら美人」の最後の一人からブロックされたとき、22歳から32歳という年齢層にはいよいよ限界を感じました。

女 気づけて良かったですね。

男 「30歳から35歳までの美人」から再スタートです。そこからまた下りに下って「全国・海外の交通費を払える30歳から35歳までのもしかしたら美人」の最後の一人からブロックされるまで、一連の条件下りをありとあらゆるアプリで繰り返しましたっけ。

女 いまのラブラブ・カムカムだけの話じゃなかったんですか？

男 なに寝ぼけたこと言ってるんですか。世の中そんなに甘くありませんよ。マッチドットコム、ユーブライド、ペアーズ、ウイズの順番で、「22歳から32歳までの美人」から「全国・海外の交通費を払える30歳から35歳までのもしかしたら美人」全員に当たりました。いくら「人事を尽くして天命を待つ」と言えどもさすがに疲れましたね。ラブラブ・カムカムで最後にしようと思いました。

女 すごい。

男 急に視界が開けたのは、そのラブラブ・カムカムで「全国・海外の交通費を払える30歳から35歳までのもしかしたら美人」の最後の人に断られたときだったかな。わかつちやっただんです。一発逆転なんてありえないんだって。失礼ですけど、あなたは年収以外はぼくの希望条件にかすりもしないひとでした。「22歳から32歳の美人」検索以前のぼくなら、こうして会うこともなかったでしょう。経験値があったからこそ会うことができたひとなんです。しかも会ってみたら、すごく楽しい。

女 楽しい。これが。

男 「33歳から43歳までの普通の女性」とたくさん会ってきたなかでも、楽しいと感じることは一度もなかったぼくがですよ。

女 帰りますね。

男 ナシ、ですか。

女 ナシに決まってるでしょう。

男 次に会うひととぼくみたいなひとで、その次もその次の次もぼくみたいなひとで、ぼくみたいなひととしかいないことは変わらないのに、あなたは日に日に歳をとったあなたになっていくとしても？

女 絶対にナシですね。

男 この先、誰もいないかも知れませんが。

女 あなたみたいな人と一緒になるくらいなら一生独りで結構です。あなたも堂々と独りでいてください。これからずっと自分を道連れに生きていくんですから。さようなら。

男 このまま帰るなんて損だよなあ。せっかく高円寺まで来たのに。

女 残ってもっと損しちゃいました。職業病なんです。人を好きか嫌いかどうかでは見な

い。どうしたら一番いいのかで考える。どこにも配属出来ないって選択肢はありません。どんなに悲惨なひとでもどこかには必ず配属しなきゃいけないんです。

男 もつたいないなあ。バリキャリで土日しかお見合いできないうえに、今日は高円寺まで交通費をかけてきたのに。このまま帰ったら相模原と高円寺を往復しただけの一日になっちゃいますけど、いいんですか？この際フィードバックしましょうよ。

女 フィードバック？

男 お互い今後の参考になるように、どこが駄目だったのかのフィードバック。

問。

女 あなた、変わるつもりあるの？

男 それで相手が見つかるなら。

女 わかりました。あなたのためじゃなくて、この先あなたと会うことになる気の毒な女性のためにどこが駄目だったのか言ってから帰ります。

男 よろしく願います。

女 まずセッティング。「国内・海外の交通費が払えるもしかしたら美人」の最後の一人にまで断れなくなったら、初対面のセッティングから見直さないと。中間地点提案するでしょ普通。男性の最寄りの駅を指定された時点で女性の気持ちはお断わりモード。いったんお断わりモードに突入すると、三十代前半の年収一千万のイケメンってスペックの相手でもまず取り返せません。

男 そんなに嫌なら新宿でも良かったんですよ。

女 新宿だったとしても、あなたはたったの2駅じゃない。

男 4駅ですね。中野、東中野、大久保、新宿。休日運転。

女 すぐそこに住んでるくせに何言ってるの。こっちは片道一時間以上かけて来てるんですよ。こんなこと言いたくないけど、相模大野まで来てくれたひとだったんだから。

男 だったらそのひとにすれば良いじゃないですか。

女 残念ながらタイプじゃなくて。けどその努力が嬉しくてもう一回は会いました。分かりますか？どんなに条件が悪くてタイプじゃなくても、努力次第では2回目だってあり得るってこと。

男 何してるひとだったんですか。

女 そのひとのことはどうでもいいんです。あなたみたいな男性は、それくらいしないスタート地点にも立てないってことが言いたいです。普通お茶代くらい男性が払いますからね。おごってもらうんだから、指定の駅が多少遠いのは目をつぶろうって女性是我慢するものなんです。

男 おごり前提ですか。

- 女 結婚相手を探してるんですよ。お茶代も出せない男性の出る幕なんてないでしょう。千円以上するようなホテルのラウンジでお茶するわけじゃないんだし。第一、女性はお茶代なんかよりうんとお金かかるんだから。
- 男 交通費？
- 女 あなたはそれもただでしたね。顔洗って玄関出ればこの状態だって思ったら大間違い。洋服だって美容院代だってメイクだってネイルだってすごくお金がかかるんだから。
- 男 そこまでお洒落には見えませんか。
- 女 私のせいにするんですか。本当はワンピースを着てこようと思ったけど、自分の家と目と鼻の先に呼び出すような男のために新品のワンピースおろす気持ちになんかなれなかっただけです。
- 男 なるほど。参考になります。
- 女 あなた「22歳から32歳までの美人」検索以前どころかアプリ登録以前から、その腐った人間性でたとえ年収が2千万のイケメンだったとしても挽回できないくらい致命的なハンデイ負っちゃってるって自覚ある？
- 男 なるほど。すごく参考になります。
- 女 いまのはセッティングの話で、席に着いてからの会話はもう専門家に任せようがいレベルです。ここで一つ一つ挙げていくと日が暮れますからコーチングで解決してください。ひとつだけ。各駅停車しか止まらない休日のローカル駅に片道一時間以上かけて来た私に向かって「写真とは全然違いますね」って自分の顔見てから言ってるわ。あなた自分のことを棚に上げすぎて、もう空いてる棚がありませんよ。
- 男 すみません。
- 女 とにかく。速読のレッスンもう通う必要もなくなったでしょうから、その浮いたお金でコーチング受けに行ってくださいね。それと、次に会う人に「趣味はコーチング」なんて死んでも言っちゃ駄目ですよ。説明の仕方によっては一生結婚できなくなる可能性もあります。あと、チーズケーキ。一口で食べるのやめましょう。フォークでさしていっぺんに食べちゃダメです。どんなに小さなケーキでも、少しずつ切って食べてください。以上。頑張ってくださいね。
- 男 もう一度確認なんですけど、ナシですよ。
- 女 ナシですね。
- 男 ナシならぶっちゃけちゃいます。このあとのひとが武蔵境なんですよ。
- 女 このあとのひと？
- 男 なにも自分の家から目と鼻の先だったからってここを選んだわけじゃありません。あなたは新宿が都合良かったんでしょうけど、このあとのひとは吉祥寺か三鷹が良かったんです。だから今日に限っては、高円寺が中間地点だったんですよ。
- 女 続けて。
- 男 あなたに渡したレーズンサンド。一つしか用意してません。一日に面談を何人かを掛

け持ちする場合、手土産は一つしか用意しない主義なんです。全員気に入ることなんてまずあり得ませんからね。生菓子には賞味期限もありますし、取っておくわけにもいきません。何個も買ったなら勿体ない。来週の相手に持ち越すわけにはいきませんか。その一つを渡すくらい、あなたを気に入ったってことですよ？

女 続けて。

男 長谷川誠二です。はじめまして。

女 ふうん。

男 彼女だと思ってたのは自分だけでした。7年間。

間。

男 7年もの間、普通のカップルと何ら変わらない関係でした。平日はその日にあったことをお互いに話して週末はデートをするような。それが彼女の仕事が忙しくなって、毎週末だったデートが月一回になって、それも二カ月に一回と頻度が落ちて、だんだん連絡が取れなくなつて。

女 フェードアウトっていうんですよ。

男 とところが復活するんです。疎遠になつても、1年後に何もなかったみたいに連絡が来たりして。久しぶりに会うと、そのときどきでいつも何かにときめいているような子でした。手仕事が多かったかな。ブリザーブドフラワーの認定講師の資格を取つてみたり、レジンアートに凝つてみたり。

女 貴和製作所のことを教えてくれたのもその子。

男 ユザワヤ友の会に一緒に入ったこともありました。僕と違って明るくて行動力があつて好奇心旺盛で、人生に希望を持って何にでもチャレンジする。彼女と話をしていると新しい扉が開いて、世界が目まぐるしく変わっていくのが楽しかった。

女 どうして私にこんな話するんですか。

男 レジンアートの次だったかな、ネイル検定3級の資格を取ることにして、東京ビッグサイトで僕が試験のモデルをしたんです。ネイル検定って毎回テーマがあるんです。その時のテーマは「花」でした。ハイビスカスの絵を散々練習したけど、本番は上手くいきませんでしたね。手が震えてるんですよ。ハイビスカスのはずがアメーバみたいになつちやつて。おまけに消毒用に手を浸す水を入れた水筒にコーヒーの残りカスが付いてて、茶色い水が出てきちゃったんです。慌てて、代わりの水を買に行つたけど、炭酸水しか売ってなかった。ブクブクしてるのを試験監に見つからないように、炭酸が落ち着くまで二人で必死に隠しましたよ。

女 これ、お金の話ですよ。

男 絶対に落ちたと思つたら、なんと合格。2級の準備をするためにスクールも検定に特化したところに入り直す必要があつて、

女 デートのお茶代は出すべきだけど、そういうお金は出しちゃ駄目でしょう。

男 試験のモデルをするようになってからは、昔みたいに毎週会えるようになってたんです。またいなくなれるのが怖くて。

女 それで？

男 2級、1級と順調に合格して、サロンを開きたいと相談されました。

女 いくら？

男 一千万。

女 そんなに。

男 彼女だと思ってたのは自分だけでした。

問。

女 あなたも悪いですよ。何もネイリストになりたがるような子じゃなくても良かったのに。

男 もっと身の丈にあう子を最初から探してれば、そんな目に遭わなくても済んだのについて、そう言いたいんでしょ？

女 美容系の民間資格ですからね。ちょっとお洒落な流行りの仕事。やる人もキレイ目が多い。

男 平たく言えば不美人を狙えと。

女 中身を見なさいってこと。

男 不美人でした。

女 嘘でしょ。

男 明るくて行動力があって希望を持っているような、不美人でした。

女 不美人って木嶋佳苗みたいなブスじゃないでしょ。

男 あっちのほうがまだ魅力あります。多才だし。

女 そうですか。

男 殺されなかっただけマシですね。

女 そんなこと言わないでください。

男 今まで散々不美人会ってきました。美人は性格が悪くて不美人は性格が良いってのが世の中の定説になっちゃってますけど、実際その世界に踏み入れてきた者として断言できます。ブスは危険。今日の話、全部世の中の的には美人とは言えない方の話です。

女 面会直後にブロックされたっていうのも？

男 相当不美人でした。

女 トイレ行ってる間に帰られたっていうのも？

男 更に不美人でした。考えれば分かりそうなもんです。性格が良くなるはずないんです。世の中に不当に扱われ続けてきた女性ですから、どうしても歪む。不美人を逆手にと

ってウリに出来るくらい強かな不美人だったらまだ良いですよ。山田花子とかぼる塾とか。だけど現実にはそれも出来ない不美人のほうが圧倒的多数。ブス商法で上手く立ち回れないからこそ残ってるんです。逆に美人は、可愛がられて大切にされるばかりの人生を歩んできてますから、ひねくれたものの見方なんてしないんですよ。

女 言われてみればそれはそうかも。

男 中身を見ていないわけじゃありません。好きになる相手がたまたま美人だけで、美人を好きになろうとなんかしてないんです。美人でも不美人でも、定説通りに生きてくれれば不美人はブサイクと、美人は美男とカップルになれたかも知れないのに、世の不条理で僕みたい不幸な男とあなたみたい淋しい女が出てくる。需要と供給のねじれたバランスが分からなくて頭痛がします。

女 需要と供給のねじれたバランス。

男 そう。

女 年収ばかり見て高望みしているから相手が見つからないんだって言われたって、年収は単なる数字なんかじゃありませんからね。年収が低い男性は、それなりに理由があって年収が低いんです。誤解を恐れずに言うと、そのひとの向上心のなさだったり生きることに対する意欲の低さが数字に現れていることが多い。一流会社に勤めているひとは、家庭環境だったり育ちかただったり、その会社に辿り着けるまでの人生がきちんとあるわけで、年収はそれらを物語ってる。妙齢の女性がタイムリミットと闘いながら生涯の伴侶を探そうとする上で、少しでも近道するために色々な情報を含んだ年収というヒントに頼るのを、安易に責めるべきじゃありません。

男 近道なんてないでしょう。

女 ほんの気休めなのは分かっています。

男 年収が低いひとがそれなりに理由があって年収が低いのも同じで、ハイスペックでも相手がいないひとは理由があってハイスペックなのに相手がいないんじゃないですか。

女 四十六歳、バツイチ、年収二千万の経営者。普通に考えたら四十代の女性になんか見向きもしないスペック。お腹が出てたから警戒心が解けちゃったのかも知れません。

男 年収が高くてもおじさん体型だったりバツイチ子持ちだったりすると、若い子には相手にされませんから。結論を言うと既婚者でしたね。分かったのは半年後。半ば諦めているような四十代の女性なら、デブなバツイチでも門前払いにはしない。使い勝手の良い対象に見られたんです。その既婚者との半年間で私はすっかり半年歳をとって、歳をとってしまった半年分、余計に婚活が険しくなりました。私を騙したその半年のせいで私がこの先結婚できなくても、出産のタイムリミットの貴重な時間をドブに捨てることになるのと分かっているけども、その同じ半年で自分さえ気持ちよく過ごすことさえ出来ればそれで良かったんです。四十代の女性だっていうだけで、そんな扱いをされたんです。

男 殺されなかつただけマシですよ。

女 殺されたほうがマシだったのかも知れませんが。

男 そんなこと言わないでください。運が悪かっただけでしょ。

女 それもどうか。この先ももう、そんな扱いしかされないのかも知れませんが。思い切った大きく、大きく妥協しない限り。お金のない歳下か訳アリな歳上か。結婚相談所の担当者にも言われました。

男 幸せならそれでも良いんじゃないやありませんか。

女 まわりはどんどん妥協していきます。出会いは決まって「知人の紹介」で、必ず「電撃的に」「運命的に」結婚が決まる。そりゃそうでしょう。一ヶ月以内に相手を決めて、三ヶ月以内に婚約して退会するのが結婚相談所の決まりなんですから。

男 幸せじゃないんですか。

女 5歳下の男性と「電撃的に」婚約した昔の同僚も一回り年上で再婚の経営者と「運命的に」出会った別の知り合いも、お相手のことを痛々しいほど自慢してきます。ひとに自慢することで自分に自分の幸せを必死に証明しようとしてる。自分で自分を殺すみたいに。結局、他殺か自殺かの差でしかないですよ。

男 あなた言いましたよね。初対面で楽しくなくても、時間をかけて徐々に理解しあうっていつか思い合えるようになるひとがいれば良いんだって。

女 たったひとりでいいんです。そのたったひとりと巡りあうのがこんなに途方もないなんて。

男 入ってきたとき、残念そうな目をしたでしょ。あ、今日も外れだったという目。それを見て僕も諦めちゃったんですよ。意地悪なことをたくさん言いました。このあとのひとが武蔵境だつていうのは嘘です。このあとのひとなんていません。高円寺に来てもらったのには理由があります。もし、今日話が弾んで、あなたといつか思い合えるような関係になればそんな予感がしたら、僕の家に来て欲しかったんです。

女 いきなり。

男 父がもう長くないんです。もってあと半年。ここ数年、お前はいつ結婚するんだってそればかりで。

女 気持ちわかるけど・・・

男 嘘をついて欲しいわけじゃありません。決まった相手はいなくても、いつか思い合えるようになればそんな相手はいる。それだけでも安心すると思うんです。顔を見せに来てもらえるだけで良かった。

女 これ、そのために用意したんですね。

男 お願い出来ませんよね。

女 ごめんなさい。

男 ・・すみません。勝手なことを言っちゃって。

女、男から貰った手土産を返す。

女 行きますね。

男 もう会うこともありませんね。

女 あなたとわたしはさよならだけど、私たちはいつか必ず「あなた」と「わたし」にさよならできる。そう信じることにしませんか。

女、席を立つ。

女 長谷川誠二さん。

男 はじめまして。

女 白井紀子です。

男 さようなら。

女 さようなら。

女、去る。